

酒 税

統計表を見る方のために

1 利用上の注意

この章は、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの間に製造場から移出された酒類について、令和5年4月30日までの申告又は処理による課税事績を示したものである。

2 酒税の概要

酒類とは、アルコール分1度以上を含んでいる飲料（アルコール事業法の適用を受けるアルコールを除く。）で、その製法や性状により4種類、17品目に分類している。

酒類の分類は、①発泡性酒類（ビール、発泡酒、その他の発泡性酒類）、②醸造酒類（清酒、果実酒、その他の醸造酒）、③蒸留酒類（連続式蒸留焼酎、単式蒸留焼酎、原料用アルコール、ウイスキー、ブランデー、スピリッツ）、④混成酒類（合成清酒、みりん、甘味果実酒、リキュール、粉末酒、雑酒）である。

各酒類の税率（1kL当たり従量税率）は、次表のとおりである。

(令和2年10月1日～令和5年9月30日)			
酒類の分類		アルコール分等	1 kL 当 たり 税 率
○ 発泡性酒類		(基本税率)	
			200,000 円
	ビール	－	200,000 円
	発泡酒	麦芽 50%以上 又はアルコール分 10 度以上	200,000 円
		麦芽 25%以上 50%未満のもの (アルコール分 10 度未満)	167,125 円
		麦芽 25%未満のもの (アルコール分 10 度未満)	134,250 円
		(その他の発泡性酒類)	いわゆる「新ジャンル」 (アルコール分 10 度未満で発泡性を有するもの)
	ホップ及び一定の苦味料を原料としない酒類 (アルコール分 10 度未満で発泡性を有するもの)		80,000 円
○ 醸造酒類		(基本税率)	
			120,000 円
	清 酒	－	110,000 円
	果実酒	－	90,000 円
	その他の醸造酒	－	120,000 円
○ 蒸留酒類		(基本税率)	
		21 度以上	200,000 円に 20 度を超える 1 度ごとに 10,000 円加算
		21 度未満	200,000 円
	連続式蒸留焼酎	21 度以上 21 度未満	200,000 円に 20 度を超える 1 度ごとに 10,000 円加算 200,000 円
	単式蒸留焼酎		
	原料用アルコール		
	ウイスキー	37 度以上	370,000 円に 37 度を超える 1 度ごとに 10,000 円加算
	ブランデー	37 度未満	370,000 円
	スピリッツ		
○ 混成酒類		(基本税率)	
		21 度以上	200,000 円に 20 度を超える 1 度ごとに 10,000 円加算
		21 度未満	200,000 円
	合成清酒	－	100,000 円
	みりん	－	20,000 円
	甘味果実酒	13 度以上	120,000 円に 12 度を超える 1 度ごとに 10,000 円加算
	リキュール	13 度未満	120,000 円
	粉末酒	－	390,000 円
	雑酒	みりん類似	20,000 円
		21 度以上	200,000 円に 20 度を超える 1 度ごとに 10,000 円加算
		21 度未満	200,000 円

3 用語の説明

この章における用語の意義は、次のとおりである。

- (1) 課税数量とは、税額決定の基礎となるべき酒類の数量をいう。
- (2) 製成数量とは、酒類の生産数量をいう。
- (3) 販売（消費）数量とは、酒類小売業者の販売数量のほか、酒類製造者及び酒類卸売業者の消費者への直売数量を含めた数量をいう。